

アンフォラ

松浦 純子

アンフォラとは古代のギリシアやローマで、ワインやオリーブオイルなどを運んだり保存したりする時に使われた陶器の入れ物のことである。液体が入った容器は重くなり、また運搬途中に転がって壊れることもあった。それを防ぐために、両手で運びやすいように、またひもを通して固定できるように容器の左右に持ち手がついている。

早い時期に作られたアンフォラは細長く、しかも下に行くほどとがった形をしている。だから、立てかけるか土か砂の中に少し埋めるようにして液体を注ぎ入れたに違いない。時代が下れば、底は安定した形に変わっていく。また、その容器はリサイクルせず使い捨てである。においや味が移ってしまうからなのだろうか。

今も昔も重いものを効率よく運ぶ輸送手段は船である。だから、アンフォラやそのかけらはギリシア・ローマが面している地中海で発見されることが多い。「海のシルクロード」というテレビの番組では、現在のトルコの沿岸で沈没した船の中に中身の入った多くのアンフォラが積まれていた、と説明していた。当時の生活ぶりが分かる古代ロマンの一つである。インド洋など大きな海洋での輸送にはかなりの危険が伴ったと想像できるが、閉じた海域の地中海でも同様に危険が待ち受けていたことだろう。

ローマにテスタッチョという地区がある。「陶器のかけら」を意味するラテン語が語源だ。ここはティベル川に面していて、古代にはこの場所は船荷の上げ下ろしをする船着き場で、多くの人が働いていた。だから、荷物を保管する倉庫があったり、屠殺場もあったりした。かつてはちよつと治安が悪く歩くのも物騒なところであったが、今は観光地になっている。そこにモンテ・テスタッチョと呼ばれる人工の丘がある。これは、アンフォラのかけらを山積みにしてできた人工の小山だ。高さ五〇m、周囲一kmと言われ、七つの丘から発展したローマにあっては、八番目の丘のようなものだ。ところどころに古代の陶器のかけらが見えるようなので、今度ローマに行ったら、ぜひこの丘を見てみたい。